

# 笑顔大好き

発行者：常井洋治  
〒319-0205 笠間市押辺1745  
TEL.0299-45-6818  
FAX.0299-45-0818

6月1日から

## いばらき消防指令センター運用開始



▲いばらき消防指令センター指令官制室にて。私常井洋治(右端)の左隣から、小川一成県議会議長、高橋靖水戸市長。12人(4班体制)の指令員が24時間体制で119番の受信、指令業務に当たっている。(平成28年6月1日)

— 燃える郷土愛。全力投球!! —

### ～119番通報は、場所・氏名などを正確に～

皆様には常日頃から熱いご支援を賜り感謝申し上げます。

この度、「いばらき消防指令センター」が、平成28年6月の消防救急無線のデジタル化に合わせ、県内21消防本部(笠間市など34市町)によるデジタル無線の共同整備と消防車や救急車の消防指令業務の共同運用を行う目的で、6月1日から運用開始しました。指令管制は、県内約210万人を対象とします。

これにより、笠間市民からの119番通報は、全て同センター(旧内原町役場の水戸市内原支所)で受信し、災害場所を特定した後、現場に最も近い消防署(笠間消防署に限らない)に出動指令を行います。従って、これまで以上に「正確な通報」による正確な指令が大切になり

ます。

この運用により業務の効率化が図られるとともに、各消防本部の連携強化及び情報の共有化が可能となり、今後予想される大規模災害における相互応援体制の充実強化が期待されます。

これらの消防指令の一元化は、私やいばらき自民党が主張してきたものです。県内全域での完全一元化を続けて求めてまいります。

残暑厳しい折柄、ご自愛をお祈りいたします。

茨城県議会議員

常井洋治



# 常井洋治が皆さんとともに進める 道路・河川・農地の整備

## 水戸土木事務所との勉強会 (H28.7.28)

### 1. 国道355号笠間バイパス(手越～石井)(28年度予算: 390,000千円)

- 全体計画延長5,200mのうち3,860mが供用済み
- 残区間(1,340m)は用地買収ほぼ完了
- 28年度はJR水戸線を跨ぐ(仮)下市毛跨線橋の橋りょう工事と道路改良工事を実施
- 平成31年開催の茨城国体までに全線供用を目指す

### 2. 平友部停車場線(大沢跨線橋～こころの医療センター前)28年度予算: 90,000千円

- 全体計画延長980mのうち180mは改良完了。160mは発注済
- 28年度は用地取得を優先する。現在の用地補償の進捗率は、面積ベースで約52%、予算ベースで約10%

### 3. 大洗友部線(橋爪地内)の整備と穴戸橋の早期架替(28年度予算: 50,000千円)

- 現道拡幅(560m)を先行させる方針。(涸沼川改修・穴戸橋架替えとの三点セット)
- 28年度は補助事業として採択された。用地取得を先行するための予算確保済

### 4. 大洗友部線(矢野下)、稲田友部線(平町)の県道の一区間を道路舗装補修工事実施後、笠間市に移管する

### 5. 杉崎友部線(小原)バイパス

- 28年度も引き続き、現地関係者との法線(ルート)の計画調整を進めていく



▲水戸土木事務所の橋本所長ら幹部と事業の進捗状況や進め方について意見交換、様々な要請をした。勉強会は18回目になった。

### 6. 上吉影岩間線(岩間駅羽鳥方向踏切)の整備

- 28年度も引き続き、笠間市が用地買収をする。(笠間市への移管が前提)

### 7. 笠間つくば線(道祖神峠のトンネル化)

- 平成28年度からの新県計画に「茨城縦貫幹線道路」(つくば～笠間～大子)の一部として位置づけられた
- トンネル化によって生じる観光・物流等の効果を県と市が検証中
- 27年10月に山口市長が「つくば市・笠間市間道路整備促進協議会会長」として、県にトンネル化を要望済
- 常井洋治は、トンネル化の「調査費」の予算化を要請した

### 8. 涸沼川改修の推進

- 常井洋治は、豪雨による浸水被害が続く、「吉原橋」下流付近の優先的的重点的な改修を要請した

### 9. 涸沼前川(小原・中市原)の土砂撤去

- 27年度は、上市原地区の土砂撤去を実施した
- 28年度は、県道杉崎友部線より上流の土砂撤去を予定

### 10. 間黒川(箱田)の土砂撤去

- 22～26年度に550mの土砂撤去を実施した
- 28年度は、流れの悪い箇所での実施を予定

### 11. 片庭川(箱田地区圃場整備地区)の創設換地用地取得

- 県が土地改良区から28年度も河川用地(創設換地)を取得する。(残金は1億円余)
- 常井洋治は、早期買取り完了を要請した

### 12. 枝折川(住吉・友部二中付近)の土砂撤去等

- 岩間街道の「高橋」から上流の友部二中脇の土砂撤去、河岸崩壊箇所の改修を予定

### 13. 桜川、随光寺川(上郷・下郷)、南指原川(本戸)の土砂撤去等

- 28年度は、流れの悪い箇所での実施を予定

### 14. 涸沼川の竹木の伐採

- 伐採後の管理を検討して対処する

### 15. 巴川JR常磐線付近の浸水対策(泉・市野谷)

- JR、地元、県、市、土地改良区が浸水対策会議を開催(H28年2月)した。額賀代議士、常井洋治も出席した。
- JRと線路下の河床の掘削により流れを良くするよう協議を進める。
- 上流部の笠間市道の橋の幅員が狭いのが田んぼの浸水の原因でもあるので、架け替えを県(水戸土木)からも市へ要請する。

## 県央農林事務所土地改良部門との勉強会 (H28.7.28)

### 1. 随分附地区で経営体育成基盤整備事業を新規開始

- 工期H28～33年度予定。28年度設計費用5,000千円
- パイプライン、農道整備など

### 2. 霞ヶ浦用水Ⅲ期、滝川、友部小原、北川根、友部市原、大古山の各土地改良事業などの推進と事業費の確保を要請した

### 3. 岩間土地改良区第四工区の施設更新事業の採択を要請した



▲平石部門長らに笠間市内の土地改良事業の推進と予算確保を要請した。

## 大規模災害対策調査特別委員会質問 (H28.6.17) 要約

- 県に気象予報士を配置し、異常気象に対応できる危機管理体制とすべきだ
- 県立中央病院は、県民の命を守る災害拠点病院の役割を果たすため、速やかに免震化による全面建て替えを行うべきだ。なぜ消極的なのか
- 防災知識・技能を習得できるコースを県立高校に設け、防災のプロフェッショナルを育成すべきだ

**常井委員** 私は平成28年第1回定例会の代表質問においても、県の危機管理部門に気象予報士を配置すべきと質した。最近の異常気象に対処していく上でも、県民への防災教育にとっても気象予報士の配置は非常に重要である。これまでの流れの延長で災害対策を考えている段階ではなく、コペルニクスの転回により頭を切り換える必要がある。これは当たり前前のことであり、気象予報士を県に常駐させ、専門的知見を活用した危機管理体制を構築すべきだ。



▲異常気象を踏まえて、災害に対する考え方を考えるべきと強調している。

**大高防災・危機管理局長** 気象予報士については、気象台と連携を密にすることで対応していきたいと考えている。

**常井委員** 県立中央病院は、東日本大震災発生時は損壊のおそれがあるということで患者を家に帰すなど、本来の災害拠点病院としては全く真逆の状況であった。そういうことなら、災害拠点病院の指定を返上すべきだ。私は、頭を切り換えて、壊れる心配がないように免震化して、県民の命を守ることができる災害拠点病院として全面建て替えを行うべきだと言っているが、県は極めて消極的である。

**五十嵐病院事業管理者** 決して消極的ではなく、積極的に新病院の計画を進行させている。常井議員のご助言もあり、なるべく早期に全免震の病院計画を、厳しい病院会計の中で、整合性を図りながら進めているところである。現在の建物も震度7まで耐えられる耐震設計であることから機能的には当座は問題ないと考えている。

**常井委員** 本県は地震の巣と言われる程、地震が多い。東日本大震災や大規模水害にも遭遇した茨城県にあっては、子どもたちへの危機管理能力を高めるため、防災に関する知識や技能を習得するための科目またはコースを設けた高校が一つくらいあってもよいのではないかと。そこでの教育を軸にして、同世代の子供たちへの防災意識普及や、防災のプロフェッショナルを育てる人材育成を考えてもよいのではないかと。学校教育の中で実施することで、子どもたちの危機管理能力を高めるとともに、消防関係への就業意識を高めるなど非常に良いコースになると考える。そういう画期的な発想により、県民に対する防災意識を高揚させていくことも検討していくべきだ。

**小野寺教育長** 具体的にはこれから検討していくということになるが、子どもたちの防災意識を高めるための取り組みの一つとして取り得る方法と考えている。現在、国では学習指導要領の全面改正に向けて検討中であり、全体の時間割や科目が新しくなる部分もあることから、どのような対応が可能なのか検討していく。

## 農林水産委員会質問 (H28.6.15) 要約

- 全国1位の主要農産品目ごとに専任の責任者を
- 6次産業化の中で、クリ農家の所得向上の支援を
- 農業後継者に青年就農給付金の支給を
- 農産品の輸出強化のため茨城空港の活用を
- 関東・東北豪雨の被災農地の復旧に感動した

**常井委員** 茨城県の農産物は、平成26年の農業産出額で全国第1位がメロン、クリなど12品目、2位がレタスなど9品目、3位がねぎなど9品目ということで、茨城の農業大県ぶりがうかがわれる。農業産出額全国第2位である「農業大県いばらき」を維持し、より充実させていくためにも、主要品目ごとに生産指導から販売指導、PRなどを含めて行う専任の責任者を配置すべきだ。

**丹治技術・担い手支援室長** 農業総合センターの専門技術指導員が中心となり、主要品目ごとにプロジェクトチームを組んで地元の関係者とも連携し産地支援を行っていく。

**常井委員** この順位の成果を維持し、より磨きをかけていくためにも、出先機関だけではなく、本庁に主要品目ごとの最終責任者をおいて支援にあたるなど、現在のシステムをもう一度再構築し、さらなる体制の強化を検討すべきだ。

**常井委員** 私はクリ農家でもあるが、クリは農家から出荷する段階で、1キログラムあたり100円台とか、よくて200円台程度と非常に単価が安い。6次産業化ということで、クリについては洋菓子や和菓子、焼酎などに加工し販売する取り組みが行われているが、農家の収益アップになっていないのが現状だ。農家の所得向上こそが地域全体の活性化につながるものであり、6次産業化におけるクリ農家への支援は、加工から販売まで農家が主役で行うことで、農家の所得向上を主とした取り組みとするべきだ。

**加藤6次産業化・輸出推進室長** 笠間地域におけるクリの6次産業化は取り組みが始まったばかりである。個別のクリ農家の所得向上はもとより、地域連携の取り組みが全体に波及することで産地のブランドが成長していけるような支援を検討していく。

**常井委員** 全体として6次産業化の取り組みも充実してきており、我々クリ農家も、クリの産地として誇りを持って品質に磨きをかけてきている。そういった努力がクリ農家の所得向上につながるようなモデルケースをつくるなど、新たな方策を検討するべきだ。



▲日本一のクリ生産県の主役は笠間市のクリ農家。農家ももっともわかる方策を求めた。

**常井委員** 国の青年就農給付金(就農前研修期間で最長2年間、就農後最長5年間について、年間最大150万円の所得支援を受けられる制度)の現行制度では農家子弟に対する受給基準が大変厳しいのは、おかしなことだ。農業の担い手を確保していくためには、新規参入者だけではなく、農家子弟に対する支援こそが重要ではないか。農家における後継者確保は、単に農業が継続されるだけではなく、地域づくりの大もとができることであり、地域コミュニティの核をつくるものだ。農家子弟は農業後継者として、確実

にその地域に根ざして育っていく可能性がある。農家子弟を該当させずして、青年就農給付金たるものの意味がない。県は、国への青年就農給付金制度の改善要望はもとより、県独自の支援策も検討すべきだ。

**井上農林水産部長** 国の青年就農給付金は、新たな設備投資が必要という新規就農者のリスクを考慮して創設された制度のため、親の経営基盤を引き継ぐ農家子弟には活用しにくい一面がある。就農前2年間については親元就農であっても給付金を受けることができるなど、少しずつ改善されてきてはいるが、現状、該当者はまだまだ低いレベルにある（H27年度実績：16歳から39歳までの農家子弟青年Uターン115名のうち、給付金受給者は19名）。担い手の確保は非常に大きな課題であることから、どうすればより効果的な支援ができるのか、真剣に検討していきたい。

**常井委員** 農産物の輸出について、北関東三県で船便を想定した実証試験を行っているが、茨城空港の活用も検討してはどうか。課題があることは承知しているが、一歩踏み出して船便、空輸便を合わせた輸出方策について検討していくべきだ。

**加藤6次産業化・輸出推進室長** 物流の効率化を図ろう

えで、船便と合わせて航空便の活用も重要であると認識している。茨城空港の活用についてはハード面の課題もあるが、引き続き検討していく。

**常井委員** 関東・東北豪雨の被害により、今年の作付けができるか心配していたが、苗が植えられ青々とした田んぼが広がっている状況を視察し大変な感動を覚えた。常総市の農地及び土地改良施設などの復旧に要した費用は。

**根本農村計画課長** 常総市の農地復旧に約5億6千万円、土地改良施設や生活関連施設も合わせると11億2千8百万円であった。

**常井委員** 農業土木という技術力と大型予算と職員の意気込みが合わさり今年の作付けに至った。最悪の場合には耕作放棄地の発生や離農者が増えるなど問題が生じていたところであった。職員はどのような気概で復旧に取り組んだのか。

**井上農林水産部長** 現場に寄り添い、何に困っているかを現場の視点で考え進めてきた。被害状況の把握に努め、国に支援を要請するとともに、地元の市やJAなど、色々な組織が何をできるか考え、職員1人ひとりも気概をもって取り組んできた。



▲13回目となる「道の市」笠間ハンドメイドフェアin 弁天町では、今年も「人車」（人力で押す）が快走した。鈴木要一実行委員長さんたちと。(H28年6月)



▲穴戸小学校の春の運動会は、伝統校らしく生徒のきびきびした動きが目立った。(H28年5月)



▲泉地区の八坂神社は、約1年前落雷で焼失した。総代・氏子の結束で、みごとに再建した。おみこしも新調。祇園祭にて喜びを共にした。(H28年7月)



▲県知事杯職場対抗アームレスリング選手権大会（磯野武夫実行委員長）が水戸内原イオンで開催され、熱戦が繰り広げられた。(H28年5月)



▲茨城中央工業団地（笠間地区）への企業立地第1号のジャパンテック㈱の竣工式にてあいさつする古澤社長。回収ペットボトルから、新たなボトルを作り出す技術力（ボトルtoボトル）は、世界一だ。(H28年7月)



▲地元のため池廻りの草刈りを皆さんと一緒にした。先祖様が作った貴重な水源であるため池を守っていききたい。(H28年6月)



▲海の日に高齢者の皆さんと地域や県政の問題について勉強会を実施した。メモをとりながら、まさに「夏に鍛える」の感であった。(H28年7月)



▲友部高校は神栖高、石岡商業高と3校連合チームで夏の高校野球に出場。友部高のチアガールの応援は立派だった。(H28年7月)